

## 2020年度日本ジオパークネットワーク事業報告

2020年5月1日～2021年4月30日

### 1. 事業概要

#### (1) 組織の現状及び推進体制について

##### ① 会員加盟状況

2020年度は、桜島・錦江湾地域のエリア拡大（新規認定）があり、三宅島地域（準会員）が2021年3月31日に退会した。これにより、日本ジオパークに認定された正会員は43地域（ユネスコ世界ジオパーク9地域を含む）、日本ジオパークを目指す準会員は13地域となり、JGNは56地域（187市町村）によって構成されている（2021年4月30日現在）。

##### ② 事務局体制

JGN事務局は、正職員1名（事務局次長：総括）、臨時職員2名、パート職員1名をJGNとして雇用しており、事務局長1名（糸魚川）、研修派遣職員1名（下北）を合わせ6人体制となっている。このほかに、島原半島（三陸）、隠岐、Mine秋吉台、下北の4地域から各1名が事務局次長：業務担当として、また白山手取川から1名が事務局員として、それぞれネットワークの主体として事務局機能を担っている状況である。

##### ③ 財政状況

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により対面での会議やイベント等の開催を中止・延期せざるを得なかったものの、ジオパークアンバサダー養成事業やジオパークに関するオンライン事業説明会、ジオパーク関連商品「地球時間の旅」制作など予定どおりに実施し、さらに感染症対策のためのオンライン業務効率化等の対応を行った。また、職員給与にキャリアアップ助成金を適用し財源確保を図った。結果として5,424,598円の繰越を行う状況となった。

#### (2) 重点事業について

##### ① ジオパークに関するマーケティング

普及啓発のためのPRイベントは中止とせざるを得なかった。

しかし、ジオパークアンバサダー養成事業により箱根ジオパークとの共催でアンバサダー養成講座（オンライン講座6回、現地研修日帰り1回）を実施し、通訳案内士19名が初のアンバサダーと認定された。その後、アンバサダー養成講座実践編として糸魚川ジオパークでオンライン講座1回と現地研修（1泊2日）を1回実施し、現地研修の最後にはアンバサダーと現地の協議会メンバーで意見交換を行った。そ

の結果、通訳案内士からの目線で実際に現地を回って感じたことを共有し、現地協議会員では気が付きにくい改善点の確認に繋がり、一定の効果を得ることができた。さらに、アンバサダーに就任した通訳案内士たちがプライベートでジオパーク地域に訪問したり、ジオパークの知識をつけるために自ら勉強したりと、アンバサダーに就任したことでジオパークへの関心が高まっており、アフターコロナを見据えたインバウンド対策として、これからの効果が期待できる。第2弾としてのメディア関係者との調整も進んでおり、今後も多様な分野のアンバサダーを養成し、ブランド化に向けた取り組みを進めていく。

また、ジオパークに関するインターネット調査を実施し、ジオパークの認知度、コロナ禍の影響による旅に関する意識変化などを把握した。さらに、ジオパークごとの訪問経験や満足・不満を持った割合、不満があるとしたらその改善と、「ジオパークを知っているが、未訪問」の方がどのようにしたらジオパークに関心を向けてくれるかについて分析を実施し、ウェブサイトの結果を公開した。約1万人に「ジオパークを知っていますか？」と調査した結果、「知っている」と回答したのは54%であった。また、コロナ禍による旅行先や意識の志向は大きく変化の兆しがあることが明らかになった。ジオパーク未訪問の理由として「何が実現できる場所なのかわからない」といった意見があり、「伝わる」を意識した広報戦略の必要性が明らかになった。具体的な方法としては、SNSや動画など様々なメディアを活用した広報・PR、修学旅行等の受け入れなどが考えられる。不満を持った理由からは改善すべき点が明確になった。満足した理由には、「良いガイドやツアー」、「これまでと違う新たな気づきがあった」などがあり、これらを意識して改善することで、不満の解消、満足度の向上につながると考えられる。

## ②ステークホルダーの巻き込み

新たな会員獲得のため「ジオパークに関するオンライン事業説明会」を開催した。ジオパーク構成自治体に含まれていない1,577市町村（各県庁含む）に案内文と「ユネスコ世界ジオパーク（パンフレット）」「日本のジオパーク活動（リーフレット）」「GEOPARK magazineVol.7」を送付し、興味を持つ17地域（団体）からの参加があった。事業説明会では会員8地域（洞爺湖有珠山、銚子、萩、土佐清水、隠岐、糸魚川、箱根、三好）の事例報告を行った。事後アンケートの結果、参加した17地域（団体）の中で3地域ほどが準会員参加に前向きに取り組むという回答があった。

また、認定NPO認証取得により協賛会員（寄付者）を拡大し、多様なステークホルダーのジオパーク活動への参画を促進させるため、2020年6月5日付で各地域に協賛会員獲得の協力をお願いしたところ、238件（2021年4月30日現在）の寄付を獲得することができ、2021年度に認定NPO申請のできる状態が整った。さらに、今後の普及活動をより活発にするために、顧客管理システム「Salesforce」を導入し、JGNに関わるステークホルダーの情報をデータベース化し、関係者一人ひとりに合わせて効果的な活動ができるような体制を整えた。

また、日本地質学会の協力もあり同学会の機関紙であるジオルジュを各地域に配付した。各地域においては拠点施設等に配置され、コロナ禍で活動しにくい状況が続く中、ジオパークに関連の深い地球科学に関する正しい学びを促進することができるようになった。

## ③人材育成のため活動強化

ネットワークを支える新たな人材育成を念頭に、ジオパーク関連商品「地球時間の旅」制作や事業説明会、中期計画の事前調整など、ネッ

トワーク活動の様々な場面を通じて主体的参加を呼びかけてきた。オンライン会議ではあるが、活動の主体となることで活動への理解が進み、新たな人材の発掘にもつながっている。

### (3) その他の事業について

#### ①普及啓発に関する事業

島根半島・宍道湖中海で予定していた第11回日本ジオパーク全国大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により初の延期となった。

2019年10月～12月に実施したガイド調査を基にガイドの現状や考え方などの分析を行った。この調査には257人から回答が得られている。『ガイド活動はおもしろいと感じますか』という設問に対して『おもしろい』、『まあおもしろい』と答えた人は242人(94.1%)、『ガイド活動はやりがいがあると感じますか』という設問に対して『大変ある』、『ややある』と答えた人は241人(93.8%)であり、ガイド活動に魅力を感じている人が多いことが読み取れた。一方『現状のガイド活動は、金銭的に満足できるものですか』という設問に対して『満足している』、『ある程度満足している』と答えた人は64人(24.9%)、『普通』と答えた人は123人(47.9%)、『やや不満である』、『不満である』と答えた人は68人(26.4%)であり、ガイド活動による収入に関しては改善の余地があることが読み取れた。なお、『現状ガイド活動をしている条件や環境は、総合的に満足できるものですか』という設問に対して『満足している』、『ある程度満足している』と答えた人は111人(43.2%)であり、『ガイド活動を始めてから、ジオパーク関係や、地域の行事・事業への参加は増えましたか』という質問に対して『増えた』、『やや増えた』と答えた人は228人(88.7%)だった。ガイドはジオパークを訪れる人と直接触れ合う重要な役割を担っており、現状や考え方を把握できたのは大きな成果である。今後は活動への更なる参加とガイド技術の向上を働きかけ、ジオパーク活動の理解促進につなげたい。

また、広く一般のジオパークファンを獲得するため、ジオパークの「楽しさ」について焦点を絞ったTwitterアカウント「まんきつジオパーク (@JGNenjoyGeopark)」を新設し、ジオパークの日(8/22)にあわせてプレゼントキャンペーンを行なったところ、公式アカウント(@OfficialJGN)のフォロワー層(多くは30～40代男性)とは異なる層(キャンペーン有効当選者44名中、女性当選者は29名であり半数以上が女性)のフォローが獲得できた。

そして、JGNでは毎年、惑星地球フォトコンテスト(一般社団法人日本地質学会主催)を後援してジオパーク賞を提供しており、入選作は東京のギャラリー等で展示される。応募件数は総数で435件、その内キーワードが「ジオパーク」である応募は204件であり、毎年増えている。

さらに、かねてより要望のあったジオパーク各地域のイベント情報を網羅したサイト「Geo Go→To(ジオゴト)」と、アイテムを網羅したサイト「ジオゴトアイテム」をJGNウェブサイトにはリンクする形で立ち上げた。コロナ禍でイベント自体が少ない状況ではあるが、サイトへのアクセス数はジオゴト4,995件、アイテム1,297件と普及啓発への効果は少なくないと考えられる。

#### ②情報収集発信に関する事業

PRイベントとして計画していた旅行博、地域食イベントは中止となったが、ジオパーク関連商品として「地球時間の旅」を協賛会員企業

と共同制作することができた。各会員地域から監修や写真提供といった協力を得て3月31日に第一版を発行し、JGN ホームページからも購入できるように整備している。これを手にすることでジオパークへの関心が高まり、現地への訪問につなげたい。

また、GEOPARK magazine Vol.8を発行し大手オンラインサイトでの販売も準備している。グラビアページは「大地の力がつくる」というテーマで、地すべりや山体崩壊といった災害と結びつくような現象によってつくられた雄大な景色を掲載し、恵みにも災いにもなり得る大地の大きな力を表現したものとした。また、ジオパークを旅すると題したページでは、少人数で楽しめる屋外体験や自宅から楽しめるオンラインツアーを取り上げ、コロナ禍でもジオパークを楽しんでもらえる情報を掲載した。ジオパークのお土産を紹介するページでも、インターネットで購入できるサイトを掲載するなど、自宅からジオパークに触れることができるよう工夫している。GEOPARK magazine Vol.8は2月中に各地域へお届けし、様々な場所で販売、配布されている。

JGN ウェブサイトでは、コロナウイルス感染拡大の影響で旅行等に行けなくなってしまった人たちにもジオパークを楽しんでもらうために、家にいながらも各地域のジオパークを楽しめるデジタルコンテンツページ「おうちでジオパーク」を2020年4月に開設し、22地域のデジタルコンテンツを掲載した。本ページは動画だけではなく、ペーパークラフトなどの学習コンテンツや博物館やビジターセンターのバーチャルツアーなど多岐にわたるコンテンツを掲載することができ、2021年4月11日現在、3,770件のアクセス数があった。また、子ども向けコンテンツも充実させたことから、ゴールデンウィークや夏休み中など多くの方にジオパークのデジタルコンテンツを届けることができた。さらに、デジタルコンテンツ以外にも、各地域で行われているオンラインジオツアーのまとめページを2020年8月に開設し、常にどこかの地域のツアーに参加できるような仕組みを作った。このページも2021年4月11日現在、1,620件のアクセス数があり、一定の需要も確認できていることから、今後も内容を充実していきたい。

### ③活動支援に関する事業

中期計画策定を目指した組織検討については、非営利活動評価センター（JCNE）による外部評価を実施中である。この外部評価は、企業等非営利組織と連携するときの一つの信頼性の指標としても活用できるものであり、コンビニ店舗数と並ぶほどあるとされる非営利活動法人のなかで、信頼して支援が出来る団体であると内外に示す意義もある。27件のチェック項目のうち規定関係、理事会開催数、中期計画などに指摘事項があり、特に中期計画については早急な対応を求められたところである。

また、コロナ禍で対面での会議等の機会が減っていることから、JGN事務局にブロック別の担当者をおき、より円滑な連絡調整や情報共有が図れる体制をつくった。

### ④認定審査に関する事業

日本ジオパーク委員会（JGC）の審査に対する信頼性を高めるため、JGNとして現地調査員等についてのアンケートを実施し、疑義のあった事例については現地ヒアリング等を行うこととしている。2019年度審査分については8地域から回答があり、内1件について現地ヒアリングを実施しその結果についてJGC委員長あてに報告を行った。2020年度審査分については12地域から回答があった。いずれも審査結果に影響を与えるものではない。なお、JGCの現地調査にかかる経費報告を各地域からとりまとめ、社会通念上適切な範囲での対応となっている。

かの確認をしている。

また、文部科学省からの委託を受け、日本ジオパーク委員会の事務局業務を遂行している。特に2020年度は、新型コロナウイルス感染防止について、現地調査対象地域との確認調整や遠隔調査支援なども行った。JGNとしては、日本におけるジオパーク活動はすべてユネスコ理念の理解・普及に貢献するものであるという方針のもと、審査等にかかる委託費の確保・増額を求めている。

⑤その他目的を達成するために必要となる事業

新型コロナウイルス感染症への対応として、JGN事務局員の在宅勤務を可能とするため、共有フォルダのクラウド化、電子決裁システムの導入を行った。また、会場に集まる形式での会議をなるべく減らし、様々な場面でオンライン会議を行った。Office365TeamsやZoomなどを活用し、正副理事長会議、通常総会、全地域事務局長会議、役員地域事務局長会議などをオンライン、またはハイブリッド開催で実施した。大人数の会議の際はZoomのブレイクアウトルーム機能を使ったグループワーク等も実施し、実際に現地に来る会議と遜色ないような議論ができる環境づくりを行った。会員地域からは、旅費等の費用が発生しない会議を歓迎する声がある反面、面談することによる相互理解の場を望む声があった。

さらに、JGN オンラインジオカフェ（毎月第2・4水曜日 16:00 から1時間程度）の定期開催を試験的に実施し、誰でも参加しやすいネットワーク運営に努めている。

2. 事業の実施に関する事項

(網掛け部分は新規重点事業)

事業名	事業内容 (単位：円)	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	事業費 (単位：千円)
①普及啓発に関する事業	普及啓発用広報物作成 ・UGGpパンフレット印刷 248,600-、リーフレット郵送 56,825- ・GPの日 Twitter キャンペーン賞品 13,257-、郵便料(切手) 924- ・日本地質学会フォトコンテスト協賛 30,000-、支払手数料 980-	(A)2020.5~3 (B)東京ほか (C)20人	(D)不特定多数 (E)-	351
	ウェブサイト管理 ・ウェブサイト保守 354,200- ・イベントサイト(ジゴト)運営管理 394,108-	(A)2020.5~4 (B)東京 (C)20人	(D)不特定多数 (E)-	748

	<p>各種調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況調査 2020 及び認知度調査 622,600-、支払手数料 330-</li> <li>・ガイド調査 (2019) 結果報告 520-</li> <li>・人件費(10%)880,562-、旅費交通費(10%)15,450-、事務所費(10%)406,470-</li> </ul>	<p>(A)2020.6~2 (B)東京ほか (C)60人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>1,926</p>
	<p>ジオパーク関連イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際山の日、国際アースデー</li> </ul>	<p>(A)2020.12~4 (B)オンライン (C)10人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>-</p>
	<p>大会及び研修会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会 (1年延期)</li> <li>・関東ブロック研修会 (筑波山地域) 旅費 15,750-、全国研修会 (三笠) 参加費 42,000-、旅費 30,820-、支払手数料 220-</li> </ul>	<p>(A)2020.7~10 (B)各地 (C)120人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>89</p>
	<p>アンバサダー養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箱根編：講師謝金 48,000-、旅費 56,580-、使用料 17,460-、認定証 10,650-</li> <li>・糸魚川編：参加料 26,000-、旅費 45,460-、支払手数料 1,210-</li> </ul>	<p>(A)2020.5~8 (B)各地 (C)40人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>205</p>
<p>②情報収集発信に関する事業</p>	<p>会員募集活動 (準会員、協賛会員、オフィシャルスポンサー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協賛会員継続案内郵送料 10,750-、領収書郵送料 17,724-</li> <li>・事業説明会レターパック購入 (15,000 枚) 592,000-、配送料 7,890-、当日資料郵送料 20,630-、支払手数料 275-</li> </ul>	<p>(A)2020.5~4 (B)東京ほか (C)100人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>649</p>

	<p>ジオパークマガジン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Vol.8 編集印刷委託 4,087,600-、貯蔵品△939,488- 業務委託費（在庫販売）8,870-、宣伝広告費（贈呈）554,668- 発送費 122,661-、抽選旅費 23,100-、商品送料 2,280-、</li> <li>・記念誌在庫販売（委託料）6,000-、宣伝広告費（無料配付）29,000- 日本地質学会会誌ジオルジュ購入 359,600-、郵送料 33,240-、 支払手数料 1,686-</li> <li>・人件費(40%)3,522,249-、旅費交通費(40%)61,800-、 事務所費(40%)1,625,881-</li> </ul>	<p>(A)2020.5~4 (B)東京ほか (C)60人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>9,499</p>
	<p>PR イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会、旅行博、地域食イベント等（中止）</li> </ul>	<p>(A)- (B)- (C)-</p>	<p>(D)- (E)-</p>	<p>-</p>
	<p>ジオパーク関連商品開発等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地球時間の旅」購入（500冊仕入）1,320,000- 貯蔵品△1,108,800-</li> <li>・人件費(10%)880,562-、旅費交通費(10%)15,450-、 事務所費(10%)406,470-</li> </ul>	<p>(A)2020.7~4 (B)東京ほか (C)60人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>1,513</p>
③活動支援に関する事業	<p>地域支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連携活動：APGN 参加地域支援（オンライン）</li> <li>・防災教育活動：10/3 ぼうさいこくたい in 広島（オンライン）</li> </ul>	<p>(A)2020.5~4 (B)オンライン (C)200人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>-</p>
	<p>組織検討会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非営利活動評価センター組織評価（JCNE）</li> </ul>	<p>(A)2020.12~3 (B)東京 (C)10人</p>	<p>(D)不特定多数 (E)-</p>	<p>-</p>
	<p>各種要望活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮）要望会 会議費、会場費等（中止）</li> </ul>	<p>(A)- (B)- (C)-</p>	<p>(D)- (E)-</p>	<p>-</p>

④認定審査に関する事業	認定審査支援事業（JGN 主体） ・条件付き認定地域等ヒアリング旅費等 254,540- ・日本ジオパーク委員会会場費 50,400-、謝金 36,000-、 交通費 1,200-、郵送費 6,240-、支払手数料 440- ・人件費(20%)1,761,125-、旅費交通費(20%)30,900-、 事務所費(20%)812,941-	(A)2020.5~4 (B)東京ほか (C)60人	(D)不特定多数 (E)-	2,954
	文部科学省委託事業（JGC 事務局業務 5,553,875-） ・謝金 680,000-、委託費 866,000-、旅費 88,320-、会議費 148,460-、 消耗品 7,094-、保険料 6,315-、支払手数料 12,850- ・人件費（事業割当）3,204,081-	(A)2020.5~3 (B)東京ほか (C)60人	(D)不特定多数 (E)-	5,013
⑤その他目的を達成するために必要な事業	特記事項なし	(A)- (B)- (C)-	(D)- (E)-	0

参考：管理費（単位：円）

- ・事業費配賦分の管理費の内、人件費 1,761,125-は、正職員 1 人+臨時職員 2 人+パート職員 1 人 12,009,704-から文部科学省委託事業割当人件費 3,204,081-を除く 20%分（端数処理あり）であり、管理費の給与手当に含まれる
- ・事業費配賦分の管理費の内、旅費交通費 30,900-は、事務局職員通勤費 154,500-の 20%分であり、管理費の旅費交通費に含まれる
- ・事業費配賦分の管理費の内、事務所費 812,941-は、事務所賃借料+電気・水道+電話・通信+複合機 4,064,703-の 20%分（端数処理あり）であり、管理費の事務所費に含まれる
- ・管理費の人件費 6,087,426-は、給与手当 3,761,125-（上記の事業費配賦分 1,761,125-、糸魚川市人件費負担金 2,000,000-）、法定福利費 1,870,122-、福利厚生費 456,179-
- ・その他経費 3,510,856-は、業務委託費 1,380,731-、諸謝金 65,450-、旅費交通費 109,780-、通信運搬費 115,294-、消耗品費 181,944-、事務所費 1,203,661-、減価償却費 122,016-、保険料 11,790-、諸会費 146,000-、研修費 146,900-、租税公課 2,000-、支払手数料 25,290-

## 2020年度 活動計算書

2020年5月1日から2021年4月30日まで

特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	17,200,000	
準会員受取会費	2,800,000	20,000,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	923,122	923,122
3 受取助成金等		
受取助成金	95,000	
受取負担金	1,859,315	1,954,315
4 事業収益		
1 普及啓発に関する事業	102,300	
2 情報収集発信に関する事業	5,917,016	
3 活動支援に関する事業	0	
4 認定審査に関する事業	9,073,875	
5 その他目的を達するために必要な事業	0	15,093,191
5 その他収益		
受取利息	232	
雑収益	0	232
経常収益計		37,970,860
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	10,248,579	
人件費計	10,248,579	
(2) その他経費		
業務委託費(事業)	5,648,490	
諸謝金(事業)	764,000	
宣伝広告費(事業)	1,197,725	
会議費(事業)	198,860	
旅費交通費(事業)	724,830	
通信運搬費(事業)	882,334	
消耗品費(事業)	7,094	
事務所費(事業)	3,251,762	
租税公課(事業)	0	
研修費(事業)	0	
保険料(事業)	6,315	
支払手数料(事業)	17,991	
雑役務費(事業)	0	
その他経費計	12,699,401	
事業費計		22,947,980
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	3,761,125	
法定福利費	1,870,122	
福利厚生費	456,179	
人件費計	6,087,426	
(2) その他経費		
業務委託費	1,380,731	
諸謝金	65,450	
会議費	0	
旅費交通費	109,780	
通信運搬費	115,294	
消耗品費	181,944	
事務所費	1,203,661	
減価償却費	122,016	
保険料	11,790	
諸会費	146,000	
研修費	146,900	
租税公課	2,000	
支払手数料	25,290	
雑費	0	
その他経費計	3,510,856	
管理費計		9,598,282
経常費用計		32,546,262
当期経常増減額		5,424,598
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		5,424,598
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		5,354,598
前期繰越正味財産額		22,850,235
次期繰越正味財産額		28,204,833

# 貸借対照表

特定非営利活動法人日本シホネットワーク  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
2021年 4月30日 現在

《資産の部》			
<b>【流動資産】</b>			
(現金・預金)			
小口 現金	11,468		
当座 預金	175,000		
普通 預金	27,254,488		
現金・預金 計	<u>27,440,956</u>		
(棚卸資産)			
貯 蔵 品	2,878,618		
棚卸資産 計	<u>2,878,618</u>		
(その他流動資産)			
未 収 金	220,000		
その他流動資産 計	<u>220,000</u>		
流動資産合計		30,539,574	
<b>【固定資産】</b>			
(有形固定資産)			
什器 備品	488,066		
有形固定資産 計	<u>488,066</u>		
(投資その他の資産)			
保 証 金	914,288		
投資その他の資産 計	<u>914,288</u>		
固定資産合計		<u>1,402,354</u>	
資産の部 合計			<u><u>31,941,928</u></u>
《負債の部》			
<b>【流動負債】</b>			
未 払 金	3,333,308		
預 り 金	333,787		
未払法人税等	70,000		
流動負債 計	<u>3,737,095</u>		
負債の部 合計		3,737,095	
《正味財産の部》			
<b>【正味財産】</b>			
前期繰越正味財産額	22,850,235		
当期正味財産増減額	5,354,598		
正味財産 計	<u>28,204,833</u>		
正味財産の部 合計		<u>28,204,833</u>	
負債・正味財産合計			<u><u>31,941,928</u></u>

## 2020年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク

### 【重要な会計方針】

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正NPO法人会計基準協議会）によっています。

#### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

### 【事業別損益の状況】

事業別損益の状況は以下の通りです。

科 目	①普及啓発に関する事業	②情報収集発信に関する事業	③活動支援に関する事業	④認定審査に関する事業	⑤その他目的を達するために必要な事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>								
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	20,000,000	20,000,000
2. 受取寄付金	923,122	0	0	0	0	923,122	0	923,122
3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0	1,954,315	1,954,315
4. 事業収益	102,300	5,917,016	0	9,073,875	0	15,093,191	0	15,093,191
5. その他収益	0	0	0	0	0	0	232	232
経常収益計	1,025,422	5,917,016	0	9,073,875	0	16,016,313	21,954,547	37,970,860
<b>II 経常費用</b>								
1. 人件費								
給料 手当	880,562	4,402,811	0	4,965,206	0	10,248,579	3,761,125	14,009,704
法定福利費	0	0	0	0	0	0	1,870,122	1,870,122
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	456,179	456,179
人件費計	880,562	4,402,811	0	4,965,206	0	10,248,579	6,087,426	16,336,005
2. その他経費								
業務委託費	1,619,508	3,162,982	0	866,000	0	5,648,490	1,380,731	7,029,221
諸 謝 金	48,000	0	0	716,000	0	764,000	65,450	829,450
宣伝広告費	43,257	1,154,468	0	0	0	1,197,725	0	1,197,725
会 議 費	0	0	0	198,860	0	198,860	0	198,860
旅費交通費	249,520	100,350	0	374,960	0	724,830	109,780	834,610
通信運搬費	68,919	807,175	0	6,240	0	882,334	115,294	997,628
消耗品 費	0	0	0	7,094	0	7,094	181,944	189,038
事務所 費	406,470	2,032,351	0	812,941	0	3,251,762	1,203,661	4,455,423
減価償却費	0	0	0	0	0	0	122,016	122,016
租税 公課	0	0	0	0	0	0	2,000	2,000
保 険 料	0	0	0	6,315	0	6,315	11,790	18,105
諸 会 費	0	0	0	0	0	0	146,000	146,000
研 修 費	0	0	0	0	0	0	146,900	146,900
支払手数料	2,740	1,961	0	13,290	0	17,991	25,290	43,281
その他経費計	2,438,414	7,259,287	0	3,001,700	0	12,699,401	3,510,856	16,210,257
経常費用計	3,318,976	11,662,098	0	7,966,906	0	22,947,980	9,598,282	32,546,262
当期経常増減額	△ 2,293,554	△ 5,745,082	0	1,106,969	0	△ 6,931,667	12,356,265	5,424,598

### 【固定資産の増減内訳】

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器 備品	0	610,082	0	610,082	122,016	488,066
投資その他の資産						
保証金	914,288	0	0	914,288	0	914,288
合計	914,288	610,082	0	914,288	122,016	1,402,354

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】

#### ・事業費と管理費の按分方法

各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、給料手当については従事割合に基づき按分しています。事務所費については使用割合に基づき按分しています。

# 財 産 目 録

特定非営利活動法人日本シホネットワーク  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
2021年 4月30日 現在

## 《資産の部》

### 【流動資産】

(現金・預金)

小口 現金	11,468
当座 預金	175,000
ゆうちょ銀行(寄付金)	(175,000)
普通 預金	27,254,488
ゆうちょ銀行	(10,996,562)
三菱UFJ銀行	(16,257,926)
現金・預金 計	27,440,956

(棚卸資産)

貯 蔵 品	2,878,618
棚卸資産 計	2,878,618

(その他流動資産)

未 収 金	220,000
その他流動資産 計	220,000

流動資産合計

30,539,574

### 【固定資産】

(有形固定資産)

什器 備品	488,066
有形固定資産 計	488,066

(投資その他の資産)

保 証 金	914,288
投資その他の資産 計	914,288

固定資産合計

1,402,354

資産の部 合計

31,941,928

## 《負債の部》

### 【流動負債】

未 払 金	3,333,308
預 り 金	333,787
市民・区民税預り金	(192,500)
社会保険等預り金	(39,317)
税金預り金	(101,970)
未払法人税等	70,000
流動負債 計	3,737,095

負債の部 合計

3,737,095

正味財産

28,204,833

## 2020年度 年間役員名簿

2020年5月1日 から 2021年4月30日 まで

特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	米田 徹		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
副理事長	古川 隆三郎		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
副理事長	宮下 宗一郎		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
副理事長	桂 雄三		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	西岡 晃		2020年5月1日 ～2020年5月28日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	千葉 健司		2020年5月1日 ～2020年5月28日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	森 博幸		2020年5月1日 ～2020年5月28日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	山岸 正裕		2020年5月1日 ～2020年5月28日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	山口 昇士		2020年5月1日 ～2020年5月28日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	熊川 栄		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	坂下 一幸		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	佐藤 義興		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	真屋 敏春		2020年5月1日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	植田 壯一郎		2020年5月29日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	菊地 豊		2020年5月29日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	越川 信一		2020年5月29日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	森田 新一郎		2020年5月29日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
監事	中重 真一		2020年5月1日 ～2020年5月28日	年 月 日 ～ 年 月 日
監事	山田 憲昭		2020年5月1日 ～2020年5月28日	年 月 日 ～ 年 月 日
監事	佐々木 修一		2020年5月29日 ～2021年4月30日	年 月 日 ～ 年 月 日
監事	山口 昇士		2020年5月29日 ～2021年3月18日	年 月 日 ～ 年 月 日

## 社員のうち10人以上の者の名簿

2021年4月30日現在

特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク

	氏 名	住 所 又 は 居 所
1	様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会 会長 坂下一幸	
2	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 会長 真屋敏春	
3	糸魚川ジオパーク協議会 会長 米田 徹	
4	南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会 会長 白鳥 孝	
5	山陰海岸ジオパーク推進協議会 会長 中貝宗治	
6	室戸ジオパーク推進協議会 会長 植田壯一郎	
7	島原半島ジオパーク協議会 会長 古川隆三郎	
8	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長 水上実喜夫	
9	一般社団法人 隠岐ユネスコ 世界ジオパーク推進協議会 理事長 池田高世偉	
10	阿蘇ジオパーク推進協議会 会長 佐藤義興	
11	白滝ジオパーク推進協議会 会長 佐々木修一	
12	伊豆大島ジオパーク推進委員会 会長 三辻利弘	

13	霧島ジオパーク推進連絡協議会 会長 中重 真一
14	磐梯山ジオパーク協議会 会長 遠藤 和夫
15	ジオパーク下仁田協議会 会長 原 秀男
16	白山手取川ジオパーク推進協議会 会長 山田 憲昭
17	秩父まるごとジオパーク推進協議会 会長 久喜 邦康
18	男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会 会長 菅原 広二
19	箱根ジオパーク推進協議会 会長 勝俣 浩行
20	佐渡ジオパーク推進協議会 会長 渡辺 竜五
21	銚子ジオパーク推進協議会 会長 越川 信一
22	伊豆半島ジオパーク推進協議会 会長 菊地 豊
23	八峰白神ジオパーク推進協議会 会長 森田 新一郎
24	四国西予ジオパーク推進協議会 会長 管家 一夫
25	湯沢市ジオパーク推進協議会 会長 鈴木 俊夫
26	三陸ジオパーク推進協議会 会長 山本 正徳
27	おおいた姫島ジオパーク推進協議会 会長 藤本 昭夫

28	おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 会長 川野 文敏	
29	三笠ジオパーク推進協議会 会長 西城 賢策	
30	桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 会長 下鶴 隆央	
31	とちぎ鹿追ジオパーク推進協議会 会長 喜井 知己	
32	南紀熊野ジオパーク推進協議会 会長 仁坂 吉伸	
33	一般社団法人 立山黒部ジオパーク協会 会長 中尾 哲雄	
34	苗場山麓ジオパーク振興協議会 会長 桑原 悠	
35	Mine秋吉台ジオパーク推進協議会 会長 篠田 洋司	
36	三島村ジオパーク推進連絡協議会 会長 大山 辰夫	
37	栗駒山麓ジオパーク推進協議会 会長 千葉 健司	
38	下北ジオパーク推進協議会 会長 宮下 宗一郎	
39	筑波山地域ジオパーク推進協議会 会長 五十嵐 立青	
40	浅間山ジオパーク推進協議会 会長 熊川 栄	
41	鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会 会長 市川 雄次	
42	島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推 進協議会 会長 松浦 正敬	

43	萩ジオパーク推進協議会 会長 田中 文夫
44	茨城県北ジオパーク推進協議会 会長 太田 寛行
45	古関東深海盆ジオパーク推進協議会 会長 相川 信之
46	宮城県 蔵王町 町長 村上 英人
47	飛騨山脈ジオパーク推進協議会 会長 國島 芳明
48	北九州ジオパーク推進連絡会 会長 北橋 健治
49	土佐清水ジオパーク推進協議会 会長 泥谷 光信
50	十勝岳ジオパーク推進協議会 会長 角和 浩幸
51	東三河ジオパーク構想推進準備会 会長 木和田 治伸
52	那須烏山ジオパーク構想推進協議会 会長 川俣 純子
53	三好ジオパーク構想推進協議会 会長 黒川 征一
54	五島列島ジオパーク推進協議会 会長 野口 市太郎
55	飛騨御嶽山溶岩流ジオパーク認定準備委員会 委員長 熊崎 浩之
56	大雪山カムイミンタラジオパーク 構想推進協議会 会長 西川 将人